

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○6月3日～

先週のドル／円はあまり大きな動きもなく、トレンドは円安を維持していますが上値は重たくなっています。

米国の利下げは9月開始かさらに先になるかわかりませんが、日本が利上げに動く可能性が高まってきているため円高の動きにも気をつけたいです。

ただし、中長期的な円安トレンドがすぐに転換することは考えづらく、今年後半にかけて流れが変わってくるかどうかポイントになりそうです。

日本は金利先高感が強まり、長期金利が1%を超えてきています。

今年の春あたりまで0.8%だった長期金利は先週1.1%をつけるなど金利上昇の動きは止まりません。どこまで長期金利が上昇していくかは重要なので、しっかり追いかけていきたいです。

住宅ローンの固定金利が上昇するなど生活面でも少しずつ影響が出始めています。

欧州については、今週利下げをするという予想がほとんどで、カナダも利下げに動く可能性があります。

ただし、欧州についても次の利下げの時期は不透明で、今後どの程度の利下げを予定しているのかラガルド総裁の会見の内容にも注目したいです。

米国以外の国が利下げに動き始めると、今までのドル高の動きに変化が出てくるかもしれません。また、6月から8月は株価が下落しやすい時期なので、米国株などが大きく下げ始めると流れが急にリスク回避になって、円高の動きが加速する場合があります。

先進国は利上げが終わって、利下げの時期に入ってきていますが日本だけが遅れて今から利上げという状態です。

為替相場では利下げは通貨安の動きにつながりやすく、利上げは通貨高になりやすいことを考えると円安トレンドがいよいよ転換する可能性がファンダメンタル的には出てきたわけです。

短期的な動きだけでなく、長期的な動きの変化も考えながらリスク管理していきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週のドル／円は狭い動きとなりました。

156-158円のレンジの中での動きとなり、円安の勢いはなくなっています。

4月の終わりのように160円を目指す動きにはなっていないことから、4月終わりにつけた160.2円あたりが当面の天井になる可能性があります。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

介入前の動きを見ると、158.5円を超えてから瞬間的に160円を超えた後、すぐに158円を割り込んで、そこから158円を回復していません。

この動きから158円、158.5円あたりの抵抗が意識されます。

158円あたりでは上値が重くなり、悪材料に反応して156円あたりまで急落するような動きが出やすい状況です。

156-158円のレンジをどちらにブレイクするかに注目です。

下値は156円を割り込んでも155円台、154円台にもサポートがあるため5月中旬につけた安値の153円台半ばを割り込むまでは円安トレンドが継続していると考えて問題ないかと思います。

<気になるクロス円>

クロス円も高値圏での動きが続いています。

ユーロは170円を超えてきましたが金融政策の発表前後に大きな動きが出るかもしれないので、いつも以上にリスク管理に気をつけたいです。

また、NZドル/円もリーマンショック前の高値の97円台に近づきつつあることで、長期的な動きも確認しながら高値買いは避けてトレードしていきたいです。

クロス円も長期的には今年後半くらいにトレンド転換する可能性も考えて、月足チャートなども見て、それぞれのペアの長期サイクルも頭に入れておきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では4月景気先行指数などがあります。

米国では5月製造業PMI(改定値)、5月ISM製造業景況指数、4月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、4月製造業新規受注、5月ADP雇用統計、5月サービス部門・総合PMI(改定値)、5月ISM非製造業景況指数、4月貿易収支、前週分新規失業保険申請件数、5月雇用統計などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで5月製造業・サービス業PMI(改定値)、ユーロ圏で4月卸売物価指数、4月小売売上高、ECB政策金利発表、ラガルド・ECB総裁定例会見、1-3月期GDP(確定値)、ドイツで4月製造業新規受注、4月鉱工業生産などがあります。

ほかには、カナダで政策金利、オーストラリアで1-3月期GDP、英国で製造業・サービス業PMIの発表などがあります。